

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	長野大学				
取 組 名 称	森の生態系サービスの活用を学ぶ環境教育				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22169	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	体験活動	地域活性化		環境教育	
キ ー ワ ー ド	体験型野外学習, 生態系サービス, 地域社会, 森林の価値創出, 森の恵みクリエイター				

<選定理由>

本取組は、「恵みの森クリエイター」養成という目的のもとに森林を中核として全学の協力体制が整えられており、また取組期間中の実施計画及び取組期間終了後の NPO 法人化の見通しも適切になされているプログラムとして高く評価できる。特に、森林の再生と価値創出の理念と知識、さらに技術と情熱をもつ人材の育成が、地域社会の再生と結び付けられつつ、大学の既存のリソースを再編成しながら、体験型野外学習を加えることで実施されようとしている点も高く評価できる。

ただし、「森の恵みクリエイター」養成カリキュラムは、各学部からのやや寄せ集めの科目的印象があるので、それらを統合する概論的科目を設置することや、野外実習においても従来の蓄積を活かしながら、このプロジェクトに向けた横断的なカリキュラム原理の構築とその実践が期待される。取組実施に当たっては、このことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待したい。

取組の概要【1ページ以内】

本取組は、日本の国土の67%を占める森林を持続的に管理しつつ、その生態系サービスを再生・活用して森林の価値創出を通じて地域社会の持続的発展をはかり、日本の国土の保全に貢献できる人材を育成することを目的とする。地域社会との交流を基盤とした体験型野外学習を重視し、地域づくりの要となる「環境・観光・福祉・情報」の4領域にまたがって長野大学の全学部が連携を取り合って『森の恵みクリエイター』養成カリキュラムを展開する。これによって多様なバックグラウンドの学生がそれぞれの社会的役割とキャリアの中で、森林の管理と活用を通じて森林の価値創出と持続可能な社会づくりを推進していくことを目指す。この教育目標は、大学の建学の理念、および各学部の人材育成の目標と整合するものである。2007年から長野大学が取り組んでいる「恵みの森再生プロジェクト」が、大学の敷地内の森林を実験林として活用して森林の生態系サービスの創出と活用をはかる中で蓄積してきた知識技術を十分に活用し、4領域を重層的に組み合わせた実践的な教育活動を展開する。森林を再生・管理しながらその生態系サービスを地域社会の持続的発展と国土の保全に活用できる知識と技術を身に付け、森林に対する愛着と情熱を有すると認められた学生に、長野大学独自の「森の恵みクリエイター資格」を授与する。4領域12名の教員と関係職員、新たに雇用する森の恵みコーディネーター2名からなる「森の恵みクリエイター養成プログラム」を組織し、担当する授業の中でカリキュラムのための講義と体験型野外学習を実施する。参加学生は、3カ年で320名を予定し、近隣地域から聴講生として80名程度の参加を期待する。地域社会の学識経験者や住民、取組のコアメンバーからなる評価委員会を組織する。本取組が実施する授業と体験型野外学習に評価委員が参加し、本取組が育成を目指す人材像に基づいて取組の現実に即した参加型の評価を行い、フィードバックと順応管理を通じてカリキュラムを改善する。地域社会との双方の関わりを通じて養成された森の恵みクリエイター資格取得者が地域に輩出され、それぞれの立場、キャリアの中で森林の価値創出と利活用を通じた地域づくりと国土の持続的発展に寄与する。

取組の全体像

